

資料

ロシアの幼児体育におけるミニバレー

佐美 靖・木下 夏希・佐美 俊輔*

(2023年1月10日受稿)

はじめに

生涯を通じて健康的な生活を営むためには、バランスのとれた食生活、身体特性に適した定期的な運動実践、メンタルヘルスの維持および社会参加などが重要と言われている。心身ともに健全な成長と健康的なライフスタイルをスタートさせるためには、幼児期からの習慣化、確立が必要とされる。とりわけ近年、幼児の体力低下などが叫ばれている体力面においては、この時期に魅力的で楽しい運動・スポーツとの出会いや、体験が重要と考えられる。

1972年、北海道大樹町の小島秀俊氏（当時教育委員会職員）によって、子どもから高齢者までが男女一緒に楽しめるニュースポーツとして「ミニバレー」（英語表記MINI VOLLEY）が考案された。考案当初は、大樹町内での農閑期の活動が中心であったが、その後生涯スポーツとして十勝地方、北海道全域、さらには国内各地に普及された¹⁾。

2002年、北海道大学を会場に開催された「北東ユーラシアにおける健康、体育、スポーツ国際会議」に、日本国内、中国、韓国、ロシアから健康・スポーツ科学者が集い、特に寒冷地域が多くを占める北東ユーラシアにおける身体活動、健康増進、地域振興について様々な報告がなされた。この会議において、北海道の小さな町（当時大樹町の人口は約8千人）で生まれたミニバレーの特徴を小島秀俊氏が発表した。出席者の一人であったロシア・サハリン国立総合大学Пасюков教授（Pasyukov：以下「パシュコフ教授」とする）と小島秀俊氏との出会いが、その後のサハリン州

からロシア全土、さらにはモンゴルやヨーロッパ地域へのミニバレー普及につながり、今日の発展・拡大に至っている。

パシュコフ教授は、体育・スポーツおよび成長期の発育発達に強い関心を持っており、「スポーツとしてのミニバレー」と「日本のミニバレー活動の方式」が適していると感じていたようである。パシュコフ教授は小島氏との出会いの後、ミニバレーのルールや日本での活動についての多くの情報収集や視察を行った。これらをもとに、ロシア国内では特に幼児教育機関にける運動・スポーツとして、さらには障がい者参加の方策を模索しながら、独自の視点も組み込んで、様々なミニバレー活動を展開している²⁾。

本資料は、パシュコフ教授が2018年に発行したミニバレーによる幼児体育の指導者向けマニュアル「Физическая культура. Мини-волейбол」（体育・ミニバレー）³⁾を、日本の健康スポーツ、幼児教育関係者に紹介することを目的として、その一部を著者の許諾を得て日本語に翻訳したものである。今回は主にパシュコフ教授の教育理念とミニバレー発展の経緯、幼児体育指導者のコメント、さらに幼児体育の指導プログラムを中心にまとめた。なお、原文のロシア語から英語を介して日本語への翻訳には、主にオンライン翻訳ツール「DeepL翻訳」を用いた。本資料により、パシュコフ教授がミニバレー活動を通して子ども達の健全な成長を願う意志の一端と、教授の独特な指導技術やノウハウを理解頂き、読者諸氏が独自の視点を加味した新たな体育・スポーツ活動につながれば幸いである。

幼児教育

P.N. パシュコフ

体育 ミニバレー

幼児教育機関の体育指導者向けマニュアル

ДОШКОЛЬНОЕ ОБРАЗОВАНИЕ

П.Н. ПАСЮКОВ

ФИЗИЧЕСКАЯ КУЛЬТУРА.
МИНИ-ВОЛЕЙБОЛ



I. ミニバレー ～遊ぼう、育てよう

就学前の子ども達にとって、遊びは特に重要であり、学習の手段であり、運動の手段であり、周囲の世界を発見する手段であり、教育の一形態でもある。遊びは幼児期の主要な活動である。

このゲームは、就学前の子ども達の体育の授業で使われている内容を有機的に補完する。また、スポーツに対する興味や愛情、自尊心、健康的なライフスタイル全般に対する前向きな姿勢を育む。このニーズに応えるためには、就学前から子ども達の視野を広げ、さまざまなスポーツへの興味を維持し、伝統的なものだけでなく、非伝統的な体育の手段を広く活用したスポーツゲームの要素を教えることが必要と考える。

日本のミニバレーボール（以下、ミニバレー）を幼児の体育で使おうと考えたのは、2007年のことである。日本発のこのゲームは、以前からあったバレーボールに似た特徴がある。このスポーツのために特別に考案されたボールが目を引くが、子ども達の成長に新たなきっかけを与えてくれることであろう。ボールはわずか50gと軽量で、小さなコート（4×7m）とネットの高さ（140cm）は、ゲームを身近なものにし、大いに楽しませてくれる。

1. ロシアにおける幼児ミニバレーのあゆみ（抜粋）

2008年から2009年にかけて、バレーボールコーチのマリナ・ザハロワ（Marina Zakharova）が、幼児の注意力育成におけるミニバレーの効果について研究した。彼女はサハリン国立総合大学の大学院生で、13.00.04（体育、スポーツトレーニング、レクリエーションおよび適応体育に関する理論および方法、パシュコフ教授）専攻であった。

コルサコフの幼稚園でミニバレー教室を開催した。週2回、30分間、従来の方法（ウォームアップ、特別な運動、教育的ゲーム）に従って行われた。予備調査の結果、子ども達の注意の切り替えの程度、強度、安定性、スピードが著しく向上し、これは競技スポーツでもさまざまな生活場面でも重要であることがわかった。また、小学校でミニバレーをする子ども達の観察も続けていた。研究成果は、ザハロワが第111回地域科学・実践会議「教育学と教育」（ユジノサハリンスク、2009年2月18-19日）で発表した。

2010年、ユジノサハリンスク市の第19幼稚園の6歳児26名（男の子14名、女の子12名）がミニバレーを始めた。授業は、体育教師のオルガ・ダンチェンコ（Olga Danchenko）と、サハリン国立総合大学の学生イゴール・エフゲニービッチ（Igor

Evgenievich) が担当した。幼稚園の指導者は、体育の授業の内容や構成について特別な助言を得ることができた、保護者が教師をサポートした。

2011年5月、ユジノサハリンスクにある第19幼稚園本校で、体育指導者がミニバレーに関するゲームのルールやレッスンの方法について知るために、方法論の会議を開催した。15の幼稚園の教師にミニバレーのボール（日本製）が配られ、普及活動に積極的に取り組み、『友情のボール（Friendship Ball）』と名付けた。これは、サハリン国立総合大学の地域教育システム・教育技術研究所（ROSとPT）とサハリン州の幼児教育機関が、体育とスポーツの革新的な形態をテストするために交流した結果であった。同時に、サハリン国立総合大学体育学部のカリキュラムに「日本のミニバレー（MINI VOLLEY BY JAPAN）」という選択科目を導入した。

2011-2012年度、ROSとPT SakhsU研究所の協力のもと、サハリン州オハの市立幼児教育センター 20番を拠点施設に、幼児教育機関におけるミニバレークラブ活動の有効性に関する研究が行われた。調査に参加したのは、準備グループ（preparatory group）の幼児24名。ミニバレーは、子ども達やその保護者にとって、いつもこの珍しい遊びをしてみたいという願望があり、大きな関心を寄せてた。

2012年5月3日、ロシアで初めて、幼児を対象としたミニバレー大会が開催され、ユジノサハリンスク市内の幼稚園から、準備グループの子ども達で構成された6チームが参加した。競技はサハリン国立総合大学のスポーツホールで行われた。

幼児に最適な広さ（4×7m）とネットの高さ（140cm）を決定した。ゲームは3ゲーム構成で、各ゲームは最大7ポイントまで。それ以外は、全日本ミニバレー協会の定めるルールと同じである。自チームのサービスから得た得点がカウントされる。2勝したチームが優勝である。一人の子どもが2回ボールに触れることはできず、チーム

でボールをプレーする場合は合計3回までしか触れることができない。我々は、当初から混合チームを編成する方法を選択し、それにこだわってきた。コート上のチームは、男子2名、女子2名の計4名と補欠2名で構成されている。

体育を学ぶ学生たちは、幼稚園の先生たちが子ども達の大会準備をするのを手伝い、コートで審判員を務めていた。この慣習は現在も続いている。

2012年5月23日、ユジノサハリンスクのスポーツ施設「スパルタク」で、サハリン州の幼児教育機関の第2回スパルタキアードという枠組みで、ミニバレー大会が開催された。この運動会は、2011年からサハリン州スポーツ・青少年政策省の後援のもと開催されている。陸上、スキー、体操に加え、日本のミニバレーも子ども達の競技になった。

参加した幼稚園の体育指導員、マリア・ボチカレヴァ（Maria Bachkareva）はこう語った。－“子ども達は、勝利のためにとても努力し、勇気と決意をもってプレーしてくれました。毎日、そして日曜日も練習していました。親たちも庭に出てきて子ども達とミニバレーをする。子ども達は、このゲームがとても好きです。朝、幼稚園に来ると、いつも「今日はミニバレーするの？」と私に訊ねてきます。今後もミニバレーを続け、強力な新チームを準備していきたいです。”

2012年10月29日 ミニバレーの考案者である全日本ミニバレー協会の小島秀俊氏（会長）率いる一行が、第19幼稚園を訪問した。今回の訪問は、サハリン地域のスポーツ振興におけるサハリン・北海道友好10周年記念として行われた。温かみのある和やかな雰囲気の中、ミーティングが行われた。ミニバレーが誕生した経緯や、子ども達はなぜ体を動かすことが好きなのかを話した。教育現場における体育やレクリエーションの役割への関心は、決して偶然のものではない。

子ども達は、お客様に体操を披露した後、2チー

ムに分かれてミニバレーを披露した。子ども達はボールプレーが成功するたびに喜び、日本のお客様も一緒になって喜んだ。―“ミニバレーを発明したのは私たちですが、サハリンに来てみると、きれいで明るいという新しい一面を見ることができました。日本のミニバレーは、高齢者から若い方まで幅広くプレーされています。ミニバレーをするときに、小さな子ども達の目が輝いているのがわかりました。ミニバレーに対する新しい姿勢を、皆さんから学びたいと思います。みんなで力を合わせて世界をもっと良くしていきましょう。”と小島秀俊氏は語った。

2013年3月1日、ユジノサハリンスクの指導者を対象に、「幼稚園での教育課程で日本のミニバレーを使用し、子ども達個々の運動経験を広げる」というテーマのマスタークラスが開催された。参加者は20名であった。最高峰の体育教師であるマリア・ボチカレヴァがマスタークラスを担当した。彼女はビデオを用意し、Webサイトの資料をもとにミニバレーの歴史を簡単に紹介し、幼児を対象にしたミニバレーのレッスンの経験について話した。

2014年5月22日、ユジノサハリンスクにおいて、幼児教育機関の子ども達を対象とした「第4回地域スパルタキアード (IV Regional Spartakiade)」の一環として、ミニバレー大会が開催された。この大会は地域のスポーツ・観光・青少年政策省が主催し、審査員は、伝統的にサハリン国立総合大学の教員と学生、つまり将来の体育・スポーツの教師が務めている。

2014年11月19日、ユジノサハリンスク第19幼稚園で、サハリン国立総合大学2年生を対象に「体育」の分野でマスタークラスを開催した。指導したのは、最高位の教師であり、体操のソ連スポーツマスター、サハリン国立総合大学卒の体育教師、オルガ・ダンチェンコであった。―“すべて人生

において必要なことです。私たちは、何をどのように子ども達に教えるかについて、責任を負っています。とても才能のある子ども達がいます。生徒の中には勲章をもらっている者も少なくありません。ここ3～4年、子ども達は大会出場を目指して体を動かしています。親御さんと話していると、「チャンピオンなんていない」と言われることがあります。しかし、私たちはチャンピオンを育成しているわけではありません。年明けには、医療記録を調査し、子ども達を健康グループごとに分け、素早さ、敏捷性、柔軟性、持久力などを診断します。医療従事者と接しながら仕事をしています。1年を通じて、指標の変化をモニターしています。健康レベルに応じて、クラスの人数を決定します。1組は「もういいよ」と言われることもありますが、3組は（人数が少ないので）個人でやっています。毎日、彫刻家のように、発展途上の人間の性格や資質を彫刻するのです。「一番になりたい」「スポーツに参加したい」「もっとうまくなりたい」という子ども達を、毎回応援することが大切だと思います。（中略）

ミニバレーは、子ども達に大人気です。レクリエーションエリアと2つのコートには、大きなボールと軽いボールがたくさんあります。グループ全体が同時に活動します。身体的にも知的にも、多くの有用な資質が育まれるのです。サハリンバレーボールセンターにミニバレー部門が開設されたことで、子ども達がそこで活動が続けられるようになることを願っています。継続性の確立を心がけています。どのセクションに申し込むか、どこでスポーツ活動が続けるか、子ども達にアドバイスし手助けしています。伝統的にうちの子たちは体操やスキーに通っています。でも、ここではもちろん、親に頼るところが大きいですね。”と、オルガ・ルドルフナ (Olga Rudolfovna) は言う。

2014年12月22日 ネザヴドゥカ幼稚園（体育指導員：ニコノワ (Nikonova)）で、準備グループの子ども達によるミニバレー大会が行われ、優

勝チームは幼稚園と同じ地域にあるユジノサハリンスク第26小学校の1年生と対戦しました。ニコノワの言葉です。－“ネザヴドゥカ幼稚園の子ども達も、小学生も、みんな一生懸命、勝ちたいと思っていました。保護者も遠慮することなく、上級生の男子と親善試合をしていました。両チームのファンが選手を応援し、お父さん、お母さんが応援し、一喜一憂する姿は、とても素敵でした。子ども達と一緒に健康的な週末を過ごし、都市対抗に向けてより良い準備をする良い機会となりました。子ども達には甘い賞品が、大人たちにはスポーツを続けようという気持ちが与えられました。このような会を定期的開催することにして、今は次の大会が楽しみです。そうですね。スポーツは人と人を結びつけますし、人を集めるものです。ネザヴドゥカは、都市や地域レベルで開催されるすべてのプロジェクトや競技大会に参加しています。幼児のスポーツにミニバレーが取り入れられた頃から、このような大会で優勝したり、入賞したりするようになったんです。このスポーツは、園児だけでなく、その保護者にも人気があり、愛されています。『健康な家族－健康な子ども』プロジェクトの一環として、私たちは皆さんに声をかけ、参加してもらうように努めました。まず、幼稚園の教職員を対象にミニバレーのマスタークラスを開催し、その後、園児の保護者を巻き込みました。”

2016年9月、サハリンバレーボールセンター（ユジノサハリンスク）は、幼児がプレーできるようになったスポーツ・フィットネスグループを開設した（最高カテゴリーのコーチ、ザハロワが担当）。子ども達が定期的に運動することで、健康や体力を向上させるだけでなく、クラシックなバレーボールの基本を学べるようなトレーニングプログラムが開発された。ミニバレーもプログラムに含まれており、一般的なものから特別なもので様々な体力トレーニングが行われている。

今後、これらの研究成果やその他の研究成果は、

教師がスポーツ専門化の初期段階にあるバレーボール選手のトレーニングにうまく活用できるようになるであろう。幼児教育機関の体育指導者との会合で、ザハロワは次のように述べた。－“軽いボール、小さいコート、低いネットにより、サーブ、パス、レシーブ、ポジショニング、コート上の動きなど、バレーボールの基本的な技術を幼少期から身につけることができます。全日本ミニバレー協会のルールに従ってミニバレーを使用することで、効果的なトレーニングだけでなく、子ども達にとって魅力的なトレーニングになることを目指しています。”

ザハロワは、ストレッチを中心とした特別なウォームアップを行い、投球技術を教えるためのエクササイズを指導者に紹介し、特殊な用語に注意を促した。

今日、ミニバレーで優秀な成績を収めた幼児は、クラシックバレーボールの専門グループに所属し、いつかオリンピックの高みを目指すという新たな機会を得ている。

セルゲイ・キルサノフSergey Kirsanov－VCバレーボールクラブ<<サハリン>>のディレクター：－“ミニバレーを育てている幼児教育機関の先生方と協力していきたいと考えています。やはり、クラシックバレーボールと日本のミニバレーは共通点が多いですね。コーチ陣も順番に、その方法的な成果を今後共有していく構えです。幼児を対象としたスポーツ・健康増進教室を開催することで、子ども達の健康増進だけでなく、クラシックバレーボール教室の予備（一次）選考の質を向上させたいと考えています。”

2017年10月16日から23日にかけて、小島秀俊氏を団長とする全日本ミニバレー協会の代表団がサハリンを訪問した。10月17日、ユジノサハリンスクとその地域の幼児教育機関の体育指導者を対象に、国際ミニバレー・ワークショップが開催された。全日本ミニバレー協会、サハリンバレーボール連盟、ユジノサハリンスク市教育局の協力

のもと、サハリン国立総合大学によって始められたものである。このワークショップの目的は、ミニバレーを幼児に普及させるための『友情のボール』プロジェクトの成果と、ユジノサハリンスクおよびサハリン地域でのさらなる普及方法について議論することであった。

セミナーは、北海道センター（ユジノサハリンスク）のスポーツホールで開催された。サハリン国立総合大学体育・スポーツ学部の教育学博士ペトル・パシュコフ教授（プロジェクトマネージャー）、全日本ミニバレー協会の小島秀俊会長、桜井達美北海道サハリン事務所長が参加者を迎え、「サハリン・ミニバレー・プロジェクト」を紹介した。

セルゲイヴナ (Sergeevna) 選手 (第4幼稚園) は、ミニバレーを使った楽しいウォーミングアップを披露して笑いを誘ってくれた。日本の代表団で最年少の稚内北星学園大学侘美俊輔准教授は、子ども達と一緒にウォーミングアップを行った。ミニバレーの発表会の後、6つの幼稚園チームによるミニトーナメントが行われた。(写真1, 2, 3)

小島秀俊氏は、ミニバレー大会の審判と組織のルールについて説明した。セミナーでは、日本の専門家たちに「人に会い（であい）、友を作り（ふれあい）、友と分かち合う（わかちあい）」（小島秀俊氏考案のミニバレーのモットー）写真が紹介された。

パシュコフ教授は「友情のボール・プロジェクト：幼児の体育への革新的なアプローチ」と題した発表を行った。小島秀俊会長は、「サハリンと北海道の友好協力の要因としてのミニバレー」について報告した。侘美俊輔准教授は、日本の子ども向けのゲーム教育プログラムについて講演した。

一方、体育指導者からは、幼児教育機関におけるミニバレーの活用について、さまざまな側面が指摘された。ここでは、これらのプレゼンテーションの中から一部を抜粋して紹介する。

オルガ・ダンチェンコ（第44幼稚園体育指導員）

— “子ども達が大好きなゲームです。彼らはミニバレーに行くことをとても望んでいるのです。動きが活発で、軽快なボールです。準備体操を多用しています。このゲームは、子ども達の友情と理解を深めるものです。子ども達やその保護者の方々のミニバレーへの関心が高まっています。子ども達は楽しく体を動かしています。体育の授業で身につけた技術は、学校でも必要とされます。ミニバレーは集中力、注意力を養います。子ども達の気持ちを自由にします。「一番になりたい」「スポーツの大会に出たい」と努力する子ども達を、いつでもより良いものになるようにサポートすることが大切だと考えています。子ども達の教育機関の経営者が、このような良い活動を支援してくださるのは嬉しいことです。”

マリア・ボチカレワ (Maria Bochkareva) (第25幼稚園体育教師) — “誰もが無関心ではられない競技です。子ども達は精一杯助け合い、ボールを奪い合い、親たちも一緒になって応援で戦っています。子ども達は、ゲームをとても楽しんでいます。ポジティブな感情や新しい体験の大きな積み重ねができるのです。毎日、日曜日も練習しています。保護者が子どもを連れて幼稚園にやってくる、ミニバレーをしています。朝、幼稚園に来た子ども達は、必ず「今日は（ミニバレーで）遊ぼうか」と言います。今年、彼らは小学校へ行くことになります。でも、ミニバレーは続けますし、新しいチームを準備します。このゲームでは、子ども達のスピード感や協調性、対話力などが養われます。”

オルガ・ニコノワ (Olga Nikonova) (第44幼稚園体育教師) からは、子どものための新しい身体活動の開発における、就学前施設と学校との相互作用について話してもらった。— “このスポーツは、子ども達だけでなく、その保護者にも愛されているのです。ボールは痛みを伴わないので、ケガをすることはありません。私たちは幼稚園の先生やスタッフ、そして子ども達の保護者、すべての人がワクワクするような演出を心がけ手を差

し伸べるように努めました。ミニバレーは最初から、人々を一つにする遊びであることが証明されています”とオルガ・ニコノワは語りました。

タチアナ・メドベージェワ (Tatiana Medvedeva) (第4幼稚園体育指導員) — “子ども達の主な動きはボールを打つことであり、どのように打ってもいいのです。本物のバレーボールと違ってボールが軽いので、子ども達は怖がりません。最初は説明するのが難しいところもありましたが、遊びの場面や一生懸命な練習を繰り返し行うことでなんとかできるようになり、今では子ども達もスポーツをしたいという気持ちが強くなっています。”

2017年10月18日、日本代表団はサハリン州のスポーツ・青少年政策大臣であるセルゲイ・ブレンコフ (Sergey Burenkov) と会談した。大臣は、サハリンと北海道の住民のスポーツ連携を強化するため、ミニバレー考案者である小島秀俊氏に、サハリン州知事からの感謝状を贈呈した。また、北海道ミニバレー協会の新家光男氏と新家加代子氏に、地域スポーツ局から感謝状が贈られた。

— “サハリンとは15年来の協力関係にあります。定期的に訪問して、知識やノウハウをお伝えしています。サハリンの選手たちが来日したこともあります。昨日は、サハリン国立総合大学の協力のもと、子ども達がミニバレーをしている幼稚園の指導者向けのセミナーを開催しました。サハリンの子ども達のプレーを見ながら、セミナーで学んだことを確認しました。大学や省庁が我々の競技に注目してくれているのは、とても嬉しいことです。”と小島秀俊氏は語った。

2018年1月20日 サハリン州は、幼児（未就学児）の育成と教育のための革新的なプロジェクトを開始した。2014年12月18日のサハリン州政府決議に従い、2017年12月14日の教育省傘下の公的審議会の決定に基づいて、革新的な活動を組織した経験を持つ9つの幼児教育機関が、地域イノベーションプラットフォーム (RIP) の地位を付

与された。

2018年4月28日、サハリン州の幼児教育機関の体育指導者34名が、プロジェクト『友情のボール』内のセミナー《幼児体育におけるミニバレー》の参加証明書を受け取った。このワークショップは、地域NGOサハリンバレーボール連盟の協力のもと、サハリン州教育開発研究所で開催された。

セミナー参加者は、教育科学博士でサハリン国立総合大学パシュコフ教授から、5～7歳の子どもを対象としたミニバレーに関するプログラムを紹介された。

子ども達健康強化や健康的な生活習慣の育成を目指し、ゲームの基本的な技術も指導している。幼児を対象とした教室の運営や大会の開催など、総合的な話し合いが行われた。体験交流会には、教師も積極的に参加した。講師のテレンチエワ (Terentyeva) (第4幼稚園) は、リズムカルな音楽に合わせてボールを使ったウォーミングアップを実演してくれた。ニコノワ (第44幼稚園) は、ワークショップ参加者を対象に、いくつかのゲームテクニックを教える公開レッスンを行なった。

2018年5月17日 サハリン国立総合大学では、心理・教育研究所の学生を対象にミニバレー競技と審判ルールに関するセミナーが開催され、「教育」「体育」の分野で研究を行った。参加人数は20名であった。

2018年5月22日 ユジノサハリンスク市のサハリンバレーボールセンターでは、地域の公的機関である「サハリンバレーボール連盟」の主催で、「日本におけるロシア年」、「ロシアにおける日本年」の開幕を記念して、サハリン州の幼児教育機関の子ども達チームによる大会が開催された。参加したのは、地域センターの子ども達14チームと、アニワとコルサコフの若いミニバレー選手たち、合計96人の幼稚園児たちだった。子ども達はこの大会を楽しみにしており、経験豊かな指導

者のもとで準備を進めてきた。― “子どもが人生の一步を踏み出すように。しっかりと歩き始める前に、ミニバレーをすることで、子ども達の新しいスキルがたくさん生まれ、コーディネーション能力も発達します。このことは、将来、私たちのバレーボールセンターを含め、バレーボール（国際規格）の技術をうまく習得するのに役立ちます。” と、コーチたちは園児たちのプレーを見ながら話してくれた。

この大会は、サハリンエナジー社と共同で2018年に実施する『友情のボール』プロジェクト（サハリン国立総合大学教授 パシュコフ教育科学博士）の一環として行われたものである。このプロジェクトの一環として、幼児教育機関での授業、体育指導者向けセミナーの開催、サハリン国立総合大学の学生による授業や競技を実施するボランティアの育成が行われている。また、サハリンエナジー社の支援により、スタンド、ネット、ボールなどを購入し、プロジェクトの目標達成のために使用した。

2. まとめ

遊びの重要性は、世界中の教育関係者が認識している。幼児（3～6歳）では、遊びが子どもの主役になる。遊びは身体的、精神的、社会的、感情的な発達のための最適な基盤であると専門家は強調している。どの国でも、幼児に対する体育の教育プログラムには、自由遊びと呼ばれる運動遊びが含まれている。教育者の仕事は、子ども達の自発性を阻害することではなく、子ども達を導き、その好奇心を後押しすることである。ミニバレーは、子ども達の身体的・精神的な健康、個々の性格の発達と矯正、創造力の活性化などにうまく対応できるゲームであることが証明された。

プロジェクト『友情のボール』は、幼児（5～7歳）を対象にしたものである。このゲームは、就学前の子ども達の体育の授業で使われる手段を有機的に補完し、最適な身体の発達を促すとともに、規律、公平性、責任、誠実さ、協力といった社会的

資質の形成に貢献する。軽いボール、小さな面積のコート、ネットの高さなど、ミニバレーは身近で楽しいものである。

サハリン島内の30の幼児教育機関では、経験豊富な指導者のもと、子ども達が体育の授業や空き時間にミニバレーを楽しんでいる。そのシンプルさ、親しみやすさ、その他多くの良い点から、子ども達、親、教師が興味を持つ集団スポーツとなっている。

このプロジェクトの主な目的は、ミニバレーを幼児教育機関で展開すること、年長の園児の体力レベルやスポーツへの関心を高めることである。それは、次のような課題を次々と解決していくことで実現される。

- プロフェッショナルなコミュニティ（トレーニングされたミニバレーの指導者）を作る。
- ミニバレーをベースにした幼児の体育・スポーツ活動への参加。
- 子ども達のためのミニバレーボール教室や大会を開催するボランティアを募り育成する。
- 体育・スポーツ指導者向け方法論の出版・配布。

一般に、サハリン州では、教育機関や指導者、幼児のミニバレーへの参加者を増やす傾向にある。また、国内のいくつかの地域では、サハリンのミニバレーの経験を幼児の体育に積極的に導入し、協力体制を確立しており、高く評価しているようだ。これは、『友情のボール』プロジェクトを「全ロシア」プロジェクトに推薦する根拠となるものである。また、ミニバレーは国際的なスポーツ交流の可能性も秘めている。

就学前の子ども達の体育の課程にスポーツの要素や新しい形の遊びの活動が導入されたことで、体を動かす場所の要件を見直す必要があると考える。子どもは成長し、かつての仲間よりも大きくなり、そのニーズも高まっており、現代の幼児施設を設計・建設する際にそれを考慮に入れないのは合理的ではない。



写真1



写真2



写真3

写真1：ミニバレー国際ワークショップの参加者にボールのウォームアップを実演する子ども達

右は、稚内北星学園大学准教授 [現：育英館大学教授] 佐々木俊輔氏

写真2：ミニバレー国際ワークショップの参加者にゲームプレーを披露する子ども達

(ユジノサハリンスク、2017年10月17日)

写真3：ミニバレー大会で優勝し、喜ぶ第19幼稚園「アレクサンダー」チーム

左は、体育教師 I.Rybin氏

Ⅱ. 幼児教育機関における5～7歳児対象のミニバレー指導プログラム 解説書

幼児教育機関の大きな目的のひとつは、子ども達の健康と身体の発達を促すことである。幼児期には、健康、総合的な体力、調和のとれた身体的発達の基礎が築かれ、重要な運動技能と習慣が身につけられる。この時期に体育は特別な役割を果たす。子ども達は最も合理的な運動方法を知り、習得する。

自然は、子どもに生来の運動欲求を与え、動いたときに感じる「筋肉の喜び」という非常に貴重な感覚を身につけさせる。子ども達の大きな欲求である「動くこと」は、通常、ゲームの中で満たされる。子ども達にとってプレーすることは、何よりも動き、行動することである。一般的な健康状態の悪化や子どもの教育における個人的な問題を背景に、就学前の体育や健康回復と「遊び」の

活動を組み合わせることが求められている。

ミニバレーを子どもの体育に取り入れることは、ロシアだけでなく世界の幼児教育の新しい潮流となっている。幼児教育機関における5～7歳の子どもの対象としたミニバレーを用いた体育授業プログラムは、ロシア連邦国家就学前教育基準に基づいて作成した。このプログラムは、全日本ミニバレー協会のルールに従って子ども達にミニバレーを教える著者である教育科学博士P.N.パシュコフ教授の方法論に基づいて作成したものである。

1. プログラムの目的

就学前の子どもの健康的なライフスタイルを育み、身体的、精神的、社会的な調和のとれた発

達を促進すること。

〈カリキュラムの主な目的〉

- ① 健康増進と健康的なライフスタイルを実現すること。
- ② ミニバレーに関する知識を深めること。
- ③ ミニバレーの基本的な技術の指導。
- ④ ミニバレーの個人戦術、チーム戦術の技術を習得する。
- ⑤ ミニバレーゲーム技術の習得による運動経験の獲得。
- ⑥ 審判のジェスチャーを理解する力を養う。

〈コースの一般的な特徴〉

幼児教育機関では、幼稚園が最も一般的である。ロシアには次のような幼児教育機関がある。

- ・一般的な幼稚園：1つまたは複数の分野（知的、芸術・美的、身体的など）を優先的に発達させる。
- ・補償型幼稚園：身体的・心理的な発育不全の熟練した矯正を優先する。
- ・幼稚園の見守りと健康増進のための幼稚園：衛生、予防、健康増進のための活動や手順が優先される。
- ・複合型幼稚園：一般教育、補習教育、健康増進の各グループを様々な組み合わせで含むことができる。
- ・児童発達支援センター：全児童を対象に、心身の発達、矯正、健康増進を目的とした幼稚園。

〈ロシアにおける幼児教育の主な目的〉

- ・子ども達の健康を守り、増進すること
- ・子どもの知的・人格的・身体的発達の確保
- ・子どもの発達の逸脱に対して必要な矯正を行うこと
- ・普遍的な人間の価値を子ども達に伝える
- ・子どもの本格的な発達のための家庭との交流

2. 幼児のミニバレー

ミニバレー（国際名称：MINI VOLLEY ロシ

ア語：Мини-волейбол）は、全日本ミニバレー協会のルールブックによると、1972年に誕生した「ミニチュアバレーボール」のことである。コートが小さく、そこにいる選手の数少なく、ネットの高さが低いことからこの名前がついた。

ロシアでは、2002年から全日本ミニバレー協会と協力してミニバレーが発展してきている。サハリン州は、ミニバレー発展の原点である。小学生、学生、シニア、高齢者、障がい者がプレーし、地域間、国際間のつながりが生まれている。インターネット特設サイトでは、ゲームの歴史やルール、教室や大会の企画・開催の具体的な内容、ボール購入の方法などを紹介している（<http://japan-minivolley.ru/>）。

サハリン州とロシアのいくつかの地域の幼児教育機関でプログラムを実施した経験から、ミニバレーは子ども達の身体教育（体育）の主要な目的に貢献していることがわかる。

ミニバレーは、運動量や技術的な難易度から5～7歳の子ども達に適している。ミニバレーのルールは幼児にもわかりやすく、初心者にも理解しやすく、ゲームに参加しやすくなっている。『簡単』、『楽しい』、『楽しい』、これは子ども達がミニバレーを表現するときに使う言葉である。ミニバレーに興味を持ったという単純な好奇心でも、この子達にとっては将来、素晴らしい友情のきっかけになるかもしれない。

ミニバレーの基本を教えることを目的とした選択授業を企画・運営するためには、コート（4×7m）とネットの高さ（140cm）が必要である。バドミントン用具（ネット、ポスト）、またはミニバレー公式ルールの条件を満たす自作の用具を使用する。

白い画用紙用テープは、プレーコートの日印になる。ゲーム終了後に簡単に取り外すことができ、跡形も残らない。大きな体育館での大会では、バレーボールコートのマーキングを部分的に使用すると、競技場の準備にかかる時間を短縮することができるので推奨される。競技には、選手番号

入りのユニフォームと運動靴が必要である。試合開始前に、指導者は初めて競技を行う子ども達にマーキング（サイドライン、エンドライン）に注意を促し、必要であればコートの外周を案内して空間的な方向性を確認させる必要がある。

重さ50g、直径35cmの特別なボールは日本製である。軽量化されたボールは、打っても、選手に当たっても痛くない。ボールは曲がった軌道で飛んでいくので、プレーの状況が予測できず、その分感動も大きくなる。幼稚園の2チームは、それぞれ男子2名、女子2名の計4名（および補欠2名）で構成されている。ゲームは3セットで構成され、各セットは最大7点でとする。自チームサーブからの得点はカウントされる。2セットを勝ち取ったチームが勝利となる。1人のプレーヤーが連続2回ボールに触れてはならず、チームがボールをプレーする際には3回しか触れることができない。反則：手を相手側に移すこと、足で蹴ること。その他のルールは、バレーボールの公式ルールの範囲内である。

ミニバレーには、攻撃的な打球、微妙な組み合わせのプレー、堅いディフェンス、連携したチームワークなど、従来のバレーボールの魅力がすべて詰まっており、子ども達にとって身近で楽しいものとなっている。幼児たちの大会では、1チームの試合数は、1日目は4試合以内とし、試合は2日間にわたって行われるものとする。

指導教材は、スポーツトレーニングに準じて、理論、技術、戦術、体力づくりと構成されている。理論的なトレーニングでは、ミニバレーの歴史、ゲームのルールとその遵守の必要性、審判の身振り、個人と公共の衛生、教室での安全な行動のルールなどの課題が提示される。

ミニバレー選手の特別な身体的準備と、技術的、戦術的な行動に多くの注意が払われている。技術トレーニングには、ボール有りとボール無しの両方の練習が含まれる。ボールを扱う練習では、両手を使ったオーバーヘッドパス、下からの両手によるレシーブとパス、サーブ、アタック、ブロッ

クのテクニックを紹介。戦術的な行動は、攻撃と防御における個人、グループ、チームの行動を形成することに役立つ。

このプログラムでは、ミニバレーを練習している子ども達の技術と体力を評価するためのコントロールエクササイズ、方法論のガイドライン、体育指導者のための推奨図書リストが用意されている。

3. ミニバレー指導の原則

- 指導の原則 — 集団学習活動の基礎となる一般的な原則である。この指導要領は、体育指導者がミニバレーを「早く、簡単に、楽しく」教えるためのもので、幼児の意欲、性別、年齢、運動経験、身体的資質の発達の適時性などを考慮している。すべての原則は、体育指導者との関係、子どもとの関係の2つの方向から実行される。
- 科学の原則 — 体育指導者は、指導の内容及方法について熟知していなければならない。研修開始前に研修資料の分析を行い、最も重要な考えを強調し、詳細な計画を作成する必要がある。
- アクセシビリティ（受容可能性）の原則 — 児童 生徒の年齢、体力、健康状態を考慮し、既存の知識、スキル、能力を確認することから学習を始める（簡単なものから複雑なもの、易しいものから難しいものへ）。
- 体系性と一貫性の原則 — 学習プロセスと競争的な活動を結びつけながら、トレーニングの一貫性と漸進性を提供する。
- パリエーション（変化）の原則 — 子ども達の個別性、運動経験、モチベーションに応じて、実践的な活動のためのプログラム教材にパリエーションを持たせる。
- 進歩性（漸進性）の原則 — 子ども達がプログラムのある部分を習得するにつれて、課題と作業量が複雑になっていくことを意味する。

4. プログラムの構成

ミニバレーは、最も身近なゲームの1つである。

これは、用具が比較的シンプルであることと、体力、年齢、性別が等しいチームを編成できることが理由だ。また、ミニバレーのルールは、相手がネットで区切られている、つまり直接触れないで試合をするため、ケガのリスクが少ないことも、レッスンを開催する上で重要なポイントである。同時に、技を直接実行するためには、十分な運動準備が必要である。技術的・戦術的な動作の質は、適切な運動技能のレベルや習熟度に左右される。ミニバレークラブは、技術や戦術を深く学ぶことができるように設計されている。

体育の授業は、認知、教育・教科特性、教育的トレーニングに重点を置いている。このプログラムの実施により、ロシア連邦におけるミニバレーは、様々な年齢や体力レベルの人々の体育や活動的なレクリエーションの効果的手段として活用され、就学前の年齢から国際規格のバレーボールに特化した早期スポーツ化のための前提条件が整うことになる。

以下は、授業時間と教材のおおよその配分である（Ⅰ：週1回、Ⅱ：週2回、それぞれ5～6歳、6～7歳の子ども向け）。

1) 5-6歳 教材配分の目安

(1)プログラム教材の内容（表1）

理論的背景

- ・テーマNo.1 ミニバレー授業での安全な行動のためのルールを教える。

ミニバレー選択授業での安全なプレーの仕方。ミニバレーボール教室の用具、服装、靴の準備。スポーツホールや屋外でのマナーについて。トレーニングエリアの準備。

- ・テーマNo.2 ミニバレーボールのゲームの一般的な特徴。

ミニバレー入門：ミニバレーの歴史を紹介。ミニバレーのモットーは「出会い（であい）、仲間づくり（ふれあい）、仲間との共有（わかちあい）」である。ロシアでのミニバレー。ミニバレーが人の調和のとれた成長に与える影響

（健康増進、教育、指導）。チームの構成と選手の役割。プレーコート。

- ・テーマNo.3 障害の予防。ケガ予防のためのウォーミングアップの重要性。ルール順守のための要件。ボールの扱い方手順。捻挫や脱臼の応急処置。
- ・テーマNo.4 ゲームのルール
試合開始（挨拶）。セット数。3回タッチルール。ゲームの得点。勝者と敗者。

(2)実際の教材

ミニバレーの基本

①ゲームのテクニック

立位姿勢：高、中、低。

プレーヤーの動き：歩く、足踏み、走る、ジャンプする、動いて止まる。目印による移動、音信号による移動、移動と停止の組み合わせ。ミニバレーボールの位置で移動する。「ボール感覚」を養うことを目的とした補助的トレーニング：ボールを投げる、パスする、キャッチする、転がす、

表1 5～6歳トレーニング教材の配分目安

セクション、トピック トレーニング教材のトピック	時間	
理論的背景	I	II
ミニバレー教室における安全な行動のルール	0.25	0.25
ミニバレー競技の一般的な特徴	0.5	1
障害の予防	0.5	1
ゲームのルール	0.75	0.75
ミニバレーの基本		
ゲームのテクニック		
プレーヤーの動き	3	6
準備姿勢	1	2
攻撃の技術		
その場で上から両手でボールをパスする(その場で自分の上にパスする)	7	13
その場で下から両手でボールをパスする(その場で自分の上にパスする)	7	13
低いストレートサーブ	5	9
守備の技術		
下から両手でレシーブ	4	8
学んだテクニックをゲームに応用	6	12
体力づくりトレーニング		
コントロールエクササイズ	1	2
	36	72

さまざまな初期姿勢や位置あるいは動きながら行うボール裁き（ジャグリング）などによる練習やゲーム、リレー競争など。

②攻撃の技術

その場で上から両手でボールをパス：壁に当てる、床からのバウンドで、2人1組で、自分の上に。

その場で下から両手でボールをパス：壁へのヒットあり、床からのバウンドあり、2人組（床からのバウンドあり・なし）、自分の上（床からのバウンドあり・なし）。

低いストレートサーブ：壁に向かって、2人組で、そこから3～6メートルのネットの上を、徐々に距離を伸ばして、サーブする場所から8メートルのネットの上をめがけて打つ。

③守備の技術

両手でレシーブ：サイドライン上で2人1組のレシーブ、コート内の片側で2人1組のレシーブ。

④学んだテクニックを練習ゲームに応用

学んだテクニックをトレーニングゲームに応用する。

⑤体力づくりトレーニング

育成を目的とした運動のセット：筋力、スピード、持久力、調整力、柔軟性。

⑥コントロールエクササイズ

左右のサイドステップ移動、移動後のストップ、上から壁への両手パス、下から壁への両手パス、サーブ位置からコートへのサーブ（ゲーム技術の質の評価）。

表2 6～7歳トレーニング教材の配当目安

セクション、トピック トレーニング教材のトピック	時間	
理論的背景	I	II
ミニバレー教室の子ども達の安全ルール	0.25	0.25
備品、道具、ミニバレー用ユニフォーム	0.5	0.75
ゲームのルール	0.75	1
ミニバレーの基本		
ゲームのテクニック		
準備姿勢	0.5	1
プレーヤーの動き	2	4
攻撃の技術		
その場で上から両手でパス(その場で、自分の上)、移動後	4	8
その場で下から両手でパス(その場で、自分の上)、移動後	4	8
高精度の低いストレートサーブ	3	6
高いストレートサーブ	4	8
守備の技術		
サーブからのレシーブ	2	4
攻撃の戦術		
個々の戦術的行動		
セットした四角形にサーブするサイト内の特定エリアへ	2	4
守備の戦術		
個々の戦術的行動		
レシーブの場所の選択	1	2
レシーブの受け方を選ぶ	1	2
学んだテクニックをゲームに応用	10	20
体力づくりトレーニング		
コントロールエクササイズ	1	2
	36	72

2) 6～7歳 教材配分の目安

(1)プログラム教材の内容（表2）

理論的背景

- テーマNo.1 ミニバレー授業での安全な行動のためのルール。

ミニバレー選択授業での生徒の行動ルール、ミニバレー教室の用具、服装、靴の準備。

体育館や屋外でのマナーについて、活動場所の準備と清掃。

- テーマNo.2 用具、道具、ミニバレー用ユニフォーム。

ミニバレーコートの条件、ミニバレーのボールとネットの寸法、競技コート、競技用具（境界アンテナ、スコアボードなど）、選手用ユニフォームの条件。

- テーマNo.3 ゲームのルール。

チームの編成（チームシート、交代要員、チームキャプテン）、コート上の選手のフォーメーション、ブレイクタイム、コートチェンジ、選手の交代、ポイントを獲得すること、サーブの順番、サーブの仕方。

(2)実践的な教材

ミニバレーの基本

①ゲームのテクニック

ボール感覚を養うための準備トレーニング：ジャグリング、投げる、パス、キャッチ、様々なスタート位置からボール回し、その場でボール回し、動きながらのエクササイズ、ゲーム、リレー競争など。

これまで学んだことの反復練習：スタンス、プレーヤーの動き（歩く、セットアップステップ、ダブルステップ、ジャンプ、走る、ジャンプ、移動後の停止）、目印を使った動き、音の合図による動き、動きと停止の組み合わせ、ミニバレーの構えでの動きの繰り返し。

②攻撃の技術

その場で上から両手でボールをパス：さまざまな運動（跳ねる、しゃがむ、跳ぶ、姿勢をとる）の後、屈む、しゃがむ、手を叩く、壁に当てる、ペアで、自分の上に。

移動後、両手でボールを上からパス：壁際バウンドあり、2人組バウンドあり、自分の上（バウンドあり、なし）：グループエクササイズ：場所を変えて行う。

その場で下から両手でボールをパス：さまざまな運動（曲げる、しゃがむ、叩く）の後、壁を叩く、ペアで、互いの上に。

移動後、下から両手でボールをパス：壁への衝撃あり、床でのバウンドあり、2人組で床でのバウンドあり、自分の上（床でのバウンドあり・なし）、グループでの練習：場所を変えて。

高いストレートサーブ：壁に向かって、ペアで、そこから3～5メートルのネットの上に、徐々に距離を伸ばして、サーブの場所から、そこから4メートルのネットの上に、提供する。

低いストレートサーブ：教師が設定したサーブの本数を競う、コート手前側へのサーブ、コート奥へのサーブ、コート左側へのサーブ、コート右側へのサーブ、ゾーンへの正確性を競うサーブ、正方形をめがけての正確性を競うサーブ。

③守備の技術

サーブレシーブ：サイドラインでペアになり、サーブを受ける、ペアはネットから2メートル、

そして3メートル以上離れる。

④攻撃の戦術

個々の戦術的な動き。

コート内の一定エリアに設定された正方形に打つサーブ：エリア内のゾーンに正確に入れるサーブを競う、設定された正方形を正確に当てるサーブを競う。

⑤守備の戦術

個々の戦術的行動。

サーブレシーブする位置の選択：ボールの飛ぶ方向によって、ボールの下に行く。

サーブレシーブ方法の選択：飛んでくるボールの軌道やスピードに応じて、上から両手でレシーブしたり、下から両手でレシーブしたりする。

⑥学んだテクニックをトレーニングゲームの中で応用する

学習した技術的・戦術的な行動を練習試合で応用する。

⑦体力づくりのトレーニング

筋力、スピード、持久力、調整力、柔軟性の発達を目的とした運動のセット。

⑧コントロールエクササイズ

両手でボールを自分の上方にパスする（直径2mの円内、パスの高さ1～1.5m）。下から両手でボールをパスする（直径2mの円内、パスの高さは1～1.5m）。上から両手でボールをパス（2人1組で3～4mの距離で、相互にボールをパスする）。下からの両手パス（3～4m離れたペアで、両手でボールをパスする）。アンダーハンドで正確なストレートパス（5球、プレーの質とヒット数を評価）。

5. 教室の主な形態

子ども達への指導形態は、体育の授業体形である。

- 理論編：ミニバレーの歴史と発展、日本におけるミニバレーの役割と日常生活や自主活動での活用、基本的なルールについて話す。
- 実践：ボールを使った、または使わない新しい

身体運動の指導を行う。十分なレベルの体力、技術的・戦術的なゲーム技術の実行、チームでの行動と競争能力の向上、レッスンに対する持続的な興味の形成を行う。

- ー 自立：ボールの有無にかかわらず、自立した運動をすることで、個性を発揮し、自分の必要な動きを実現すること、さらに子ども達にゲームを普及させること。
- ー 個人：トレーニングをほとんど受けていない子ども達のスキルアップを目的とする。

6. 授業の構成

授業は週1～2回、30分程度。授業の構成は通常と同じ。

準備運動（5～10分）は、一般的なトレーニングと準備運動を複合させた内容から取り組み、体温を高め、心拍数と呼吸を増加させることから始める。運動は、ボールを使って行うものと、使わずに行うものがある。

主運動（年齢に応じて10～20分）は、ミニバレーの基本的な技術やゲームの習得、身体能力の向上を目的としており、基本的な技術（ボールの扱い方、2人組や3人組でのボールの受け渡し、攻撃ストロークの実行）に関する特別な準備運動、ボールを使ったまたは使わない移動ゲームや身体運動（例えば「ボールを投げ」ゲーム：ネットの両側にいる子ども達が、一定時間内にできるだけ多くのボールを投げ合うミニバレーの導入）から構成されている。

最後のパート（5～10分、トレーニングの長さによる）では、徐々に運動量を減らしていく。呼吸法、ゆっくりしたペースでのリラクゼーション運動、運動後の身体機能の回復を目的とした低活動性のゲームなどを行う。

7. 結 論（まとめ）

ミニバレーは、幼児の体育教育において、排除するのではなく、その手段を補完し、正常な身体発達を促すものであり、幼少期から運動場だけで

なく、生活の中で子ども同士の関わりを教える良い機会となっている。

ミニバレーは、子どもの活力を高め、年齢相応の人格を持った子どもの全人的な育成に貢献するものである。ロシアと日本の国際スポーツ交流の中で、幼児の競技を取り入れることは、ミニバレーを今後発展させていく上で重要なことだと思う。

ロシア連邦の各地域で実施されるにつれて、プログラムは改善され、新しいデータも充実していくことであろう。

【原著者】 ペトル・ニコライヴィッチ・パシュコフ (Petr Nikolaevich Pasyukov) ー教育科学博士、サハリン国立総合大学教授、ロシア自然科学アカデミー会員、ロシア連邦高等専門教育名誉職員、勤労ベテラン、ロシア地理学会サハリン支部正会員、極東連邦大学（ウラジオストク）高等専門教育のための極東地域教育センターの教育および方法論評議会メンバー、サハリン州公共会議所メンバー、全日本ミニバレー協会のルールに基づくロシアにおけるミニバレーの先駆者。

このマニュアルは、5～7歳の子どもを対象とした日本のミニバレー（国際名称：MINI VOLLEY）による運動の仕方、ならびに身体トレーニング教室や競技会を組織し実施するための作業プログラム、および方法論的推奨事項を示している。このプログラムは、著者であるサハリン国立総合大学教授P.N.パシュコフ教育科学博士の方法論に基づいている。このマニュアルは、就学前の教育機関の指導者だけでなく、トレーニングの分野で学ぶ教育機関（大学）の学生も対象としている[教育学教育 ーフィジカルトレーニング、資格：学士号]。このマニュアルは、地域公共団体「サハリンバレーボール連盟」のプロジェクト「友情のボール」のもと、「サハリン・エネルギー」の支援を受けて出版されたものである。

訳注)

- (1) 氏名や地名は、初出時に可能な限りカタカナとアルファベット表記を併記するように心がけた。
- (2) 全日本ミニバレー協会が定めている正式名称は「ミニバレー」(英語表記: MINI VOLLEY)であるが、ロシア国内では「日本のミニバレーボール」あるいは「ミニバレーボール」という意味の用語が使われている。日本語版として翻訳された本資料においては、できるだけ日本国内での正式名称である「ミニバレー」を使用することとした。また国際規格のバレーボールを「バレーボール」と表記することとした。
- (3) 本資料においては、本文を常体(だ・である調)で表記するように統一した。
- (4) 本資料における敬称については、訳者によって表記を統一してある。

文 献

- 1) 小島秀俊: ミニバレー誕生40周年記念誌―挑戦―であい・ふれあい・わかちあい―。北海道大樹町, 全日本ミニバレー協会・北海道ミニバレー協会, 2016.
- 2) 侘美俊輔: ミニバレーの国際化による幼児・障がい者への普及―ロシア・サハリン州の事例をもとに―。稚内北星学園大学紀要, 20: 41-63, 2019.
- 3) Пасюков ПН: Физическая культура. Мини-волейбол: Пособие для инструктора физической культуры дошкольной образовательной организации. 1-56, Южно-Сахалинск, Пасюков ПН, 2018. (パシュコフ PN: 体育 ミニバレー: 幼児教育機関の体育指導者向けマニュアル. 1-56, ユジノサハリンスク, パシュコフ PN, 2018.)